

# 四半期報告書

(第39期第3四半期)

自 平成22年10月1日  
至 平成22年12月31日

NECモバイルリング株式会社

東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

# 目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	3
3 関係会社の状況	3
4 従業員の状況	3
第2 事業の状況	4
1 生産、受注及び販売の状況	4
2 事業等のリスク	5
3 経営上の重要な契約等	5
4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	6
第3 設備の状況	8
第4 提出会社の状況	9
1 株式等の状況	9
(1) 株式の総数等	9
(2) 新株予約権等の状況	9
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	9
(4) ライツプランの内容	9
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	9
(6) 大株主の状況	9
(7) 議決権の状況	10
2 株価の推移	10
3 役員の状況	10
第5 経理の状況	11
1 四半期連結財務諸表	12
(1) 四半期連結貸借対照表	12
(2) 四半期連結損益計算書	14
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	18
2 その他	25
第二部 提出会社の保証会社等の情報	26
 [四半期レビュー報告書]	 27

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年2月9日
【四半期会計期間】	第39期第3四半期（自平成22年10月1日至平成22年12月31日）
【会社名】	NECモバイルリング株式会社
【英訳名】	NEC Mobiling, Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 中川 勝博
【本店の所在の場所】	東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
【電話番号】	03（5532）3300（代表）
【事務連絡者氏名】	経理マネージャー 浅香 敏
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
【電話番号】	03（5532）3300（代表）
【事務連絡者氏名】	経理マネージャー 浅香 敏
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第3四半期 累計期間	第39期 第3四半期 連結累計期間	第38期 第3四半期 会計期間	第39期 第3四半期 連結会計期間	第38期
会計期間	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成22年 4月1日 至 平成22年 12月31日	自 平成21年 10月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成22年 10月1日 至 平成22年 12月31日	自 平成21年 4月1日 至 平成22年 3月31日
売上高 (百万円)	85,993	92,764	28,274	29,806	—
経常利益 (百万円)	6,763	7,595	2,398	2,754	—
四半期(当期)純利益 (百万円)	3,868	4,152	1,371	1,548	—
持分法を適用した 場合の投資利益 (百万円)	—	—	—	—	—
資本金 (百万円)	—	—	2,371	—	—
発行済株式総数 (株)	—	—	14,529,400	—	—
純資産額 (百万円)	—	—	34,196	37,392	34,818
総資産額 (百万円)	—	—	60,759	66,418	67,233
1株当たり純資産額 (円)	—	—	2,353.61	2,573.55	2,396.38
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	266.23	285.76	94.39	106.56	—
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	35.00	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	—	—	56.3	56.3	51.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,004	2,414	—	—	—
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△363	△1,202	—	—	—
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△953	△1,469	—	—	—
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	—	—	21,755	20,329	—
従業員数 (人)	—	—	1,033	1,233	1,213

- (注) 1. 当社グループは第38期連結会計年度が連結初年度であり、また、連結子会社のみなし取得日を連結会計年度末としていることから、第38期連結会計年度においては貸借対照表のみを連結しているため、連結貸借対照表項目及び従業員数のみを記載しております。
2. 当社グループは第38期第3四半期累計期間及び第38期第3四半期会計期間は四半期連結財務諸表を作成していないため、第38期第3四半期連結累計期間及び第38期第3四半期連結会計期間に代えて第38期第3四半期累計期間及び第38期第3四半期会計期間について記載しております。
3. 売上高には消費税等は含まれておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、新株予約権付社債等潜在株式がないため記載しておりません。
5. 第38期第3四半期累計期間及び第38期第3四半期会計期間については関連会社を有しておりませんので、持分法を適用した場合の投資利益を記載しておりません。
6. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)で記載しております。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、関係会社の異動はありません。

## 4 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数（人）	1,233 [2,628]
---------	---------------

(注) 従業員数は就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、臨時従業員数（派遣社員等）は [ ] 内に当第3四半期連結会計期間の平均人員を外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数（人）	1,051 [2,172]
---------	---------------

(注) 1. 従業員数は就業人員（当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む。）であり、臨時従業員数（派遣社員等）は [ ] 内に当第3四半期会計期間の平均人員を外数で記載しております。

2. 満60歳定年制を採用しております。ただし、満60歳以降の雇用を希望する者のうち一定の基準を満たすものについては、嘱託として期限を定めて採用しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同四半期比 (%)
モバイルセールス事業	82	—
モバイルサービス事業	8,755	—
合計	8,837	—

- (注) 1. 金額は、販売価額によっております。  
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

#### (2) 商品仕入実績

当第3四半期連結会計期間における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同四半期比 (%)
モバイルセールス事業	16,779	—
合計	16,779	—

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (3) 受注状況

当第3四半期連結会計期間における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
モバイルセールス事業	259	—	35	—
モバイルサービス事業	9,047	—	1,066	—
合計	9,306	—	1,101	—

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
2. モバイルセールス事業の受注高及び受注残高には、携帯電話販売関連等は含まれておりません。

#### (4) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同四半期比 (%)
モバイルセールス事業	20,933	—
モバイルサービス事業	8,873	—
合計	29,806	—

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 前第3四半期会計期間及び当第3四半期連結会計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前第3四半期会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)	
	販売高(百万円)	割合 (%)	販売高(百万円)	割合 (%)
㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモ	6,817	24.1	6,920	23.2
日本電気㈱	6,876	24.3	6,313	21.2

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 当社グループは前第3四半期会計期間は連結財務諸表を作成していないため、前第3四半期連結会計期間に代えて前第3四半期会計期間について記載しております。

#### 2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

#### 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

#### 4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

##### (1) 業績の状況

###### ① 全般的概況

平成23年3月期の連結業績 (単位：百万円)

	第3四半期連結会計期間
売上高	29,806
営業利益	2,698
経常利益	2,754
四半期純利益	1,548

当第3四半期連結会計期間の我が国経済は、企業業績の改善など、景気回復の兆しがみられるものの、円高による市場不安や失業率の高止まり等により、先行きの不透明感を払拭するには至りませんでした。

携帯電話販売市場では、スマートフォンの端末ラインアップの充実や販売好調を受けて、端末販売台数は前年同期を上回りました。

このような事業環境のもと、当社グループ（当社及び連結子会社）は店舗における顧客サービスの品質向上に努め、スマートフォンなど高機能端末への取替需要の積極的な取り込みを行うとともに、堅調な保守サービス需要への対応や経営効率の改善などに取り組みました。

この結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は298億6百万円、営業利益は26億98百万円、経常利益は27億54百万円、四半期純利益は15億48百万円となりました。

なお、前年度の第3四半期は四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期との比較は行っておりません。

###### ② 部門別概況

###### (ア) モバイルセールス事業

平成23年3月期の連結業績 (単位：百万円)

	第3四半期連結会計期間
売上高	20,933
営業利益	1,141

当第3四半期連結会計期間においては、スマートフォンやタブレット端末、無線LAN対応端末など、端末ラインアップが充実されました。特におサイフケータイ等の国内事業者サービスに対応したスマートフォンが投入されるとともに、LTE (Long Term Evolution) サービスの開始など、各主要事業者において、データ通信関連の加入者の獲得・維持、及びデータ通信促進に向けた施策が展開されました。

このような状況のもと、スマートフォンなどの高機能端末の拡販に注力しました。これにより、販売台数は、前年度末に子会社化したマツハヤ・コーポレーション(株)による増加効果もあり、32万1千台と前年同四半期の当社単体の販売台数と比較して6%の増加となりました。

この結果、売上高は209億33百万円となりました。営業利益については、事業者の販売代理店に対する手数料体系の改定による影響があったものの、売上高が堅調であったことに加え、マツハヤ・コーポレーション(株)の子会社化の効果、周辺商材の拡販、個々のショップにおける損益改善努力、低収益事業の改善などの経営改善の取り組みの強化により、11億41百万円となりました。

(イ) モバイルサービス事業

平成23年3月期の連結業績

(単位：百万円)

	第3四半期連結会計期間
売上高	8,873
営業利益	1,557

当第3四半期連結会計期間においては、事業者の充実した保証サービスの影響などにより、携帯電話端末の保守サービス需要は堅調に推移しました。また、事業者によるネットワーク品質改善に向けた取り組みが強化されたことから、基地局整備関連需要は増加しました。

この結果、売上高は88億73百万円となりました。営業利益については、経営効率の改善などを進め、15億57百万円となりました。

(2) 財政状態の状況

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、現金及び預金や受取手形及び売掛金、未収入金が減少したことなどにより、前連結会計年度末より8億15百万円減少し、664億18百万円となりました。負債合計は、未払法人税等や未払費用の減少などにより、前連結会計年度末より33億89百万円減少し、290億26百万円となりました。純資産合計は、剰余金の配当実施や四半期純利益の計上などの結果、前連結会計年度末より25億74百万円増加し、373億92百万円となりました。

この結果、自己資本比率は56.3%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末より2億58百万円減少し、203億29百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間において営業活動の結果使用した資金は、2億48百万円となりました。

これは、税金等調整前四半期純利益の計上や仕入債務の増加などの資金増加要因をたな卸資産や未収入金の増加、法人税等の支払などの資金減少要因が上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間において投資活動の結果使用した資金は、97百万円となりました。

これは、主に固定資産の取得による支出であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間において財務活動の結果使用した資金は、7億29百万円となりました。

これは、主に第39期中間配当金の支払いによるものであります。

なお、前年度の第3四半期は四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期との比較は行っておりません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

記載すべき事項はありません。

### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、本社の一部移転に伴い、内装設備等を取引いたしました。

その設備の状況は次のとおりであります。

なお、セグメント毎の記載につきましては、困難でありますので省略しております。

提出会社

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (人)
		建物及び 構築物	工具器具及び 備品	ソフトウェア	合計	
本社 (東京都千代田区)	本社内装設備等	227	42	1	270	—

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末に計画中であった設備の新設や拡充等について、重要な変更はありません。

また、当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	48,000,000
計	48,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数（株） （平成22年12月31日）	提出日現在発行数（株） （平成23年2月9日）	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	14,529,400	同左	東京証券取引所 （市場第一部）	単元株式数は100株であります。
計	14,529,400	同左	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数（株）	発行済株式総数残高（株）	資本金増減額（百万円）	資本金残高（百万円）	資本準備金増減額（百万円）	資本準備金残高（百万円）
平成22年10月1日～ 平成22年12月31日	—	14,529,400	—	2,371	—	2,707

#### (6)【大株主の状況】

当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(注) 平成22年12月20日付にて、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループより共同保有者2名で所有する当社株式についての大量保有報告書の変更報告書が関東財務局に提出されており、平成22年12月13日付で保有株式数が113,800株減少している旨の報告を受けておりますが、当社として当第3四半期会計期間末の実質所有株式数の確認ができておりません。

なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	502,400	3.46
三菱UFJ投信株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	293,900	2.02
計	—	796,300	5.48

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成22年9月30日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

平成22年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 14,528,500	145,285	—
単元未満株式	普通株式 900	—	—
発行済株式総数	14,529,400	—	—
総株主の議決権	—	145,285	—

② 【自己株式等】

平成22年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高 (円)	2,439	2,427	2,478	2,473	2,470	2,369	2,223	2,240	2,439
最低 (円)	2,229	2,165	2,286	2,337	2,203	2,236	2,012	2,012	2,159

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までにおいて、役員の異動はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。
- (3) 前第3四半期会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び前第3四半期累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）は四半期連結財務諸表を作成していないため、前第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結損益計算書、前第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書に代えて、前第3四半期会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期損益計算書、前第3四半期累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書を記載しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び前第3四半期累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期財務諸表についてはあずさ監査法人による四半期レビューを受け、また、当第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、あずさ監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成22年7月1日をもって有限責任 あずさ監査法人となっております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	※3 6,480	※3 8,731
受取手形及び売掛金	15,336	16,054
有価証券	4,999	2,998
商品及び製品	5,057	3,714
仕掛品	1,774	1,537
原材料及び貯蔵品	853	881
未収入金	6,458	7,989
関係会社預け金	9,000	9,000
その他	2,237	2,215
貸倒引当金	△8	△7
流動資産合計	52,186	53,112
固定資産		
有形固定資産	※1 2,480	※1 2,120
無形固定資産		
のれん	2,030	2,291
その他	729	885
無形固定資産合計	2,759	3,176
投資その他の資産	※2 8,993	※2 8,825
固定資産合計	14,232	14,121
資産合計	66,418	67,233
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※4 13,695	14,034
未払法人税等	1,197	2,566
賞与引当金	636	—
転貸損失引当金	35	42
未払費用	6,540	9,307
その他	2,304	2,172
流動負債合計	24,407	28,121
固定負債		
退職給付引当金	3,790	3,650
役員退職慰労引当金	59	55
転貸損失引当金	1	67
その他	769	522
固定負債合計	4,619	4,294
負債合計	29,026	32,415

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,371	2,371
資本剰余金	2,707	2,707
利益剰余金	32,979	30,280
自己株式	△0	△0
株主資本合計	38,057	35,358
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△665	△540
評価・換算差額等合計	△665	△540
純資産合計	37,392	34,818
負債純資産合計	66,418	67,233

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【前第3四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	85,993
売上原価	73,197
売上総利益	12,796
販売費及び一般管理費	※ 6,152
営業利益	6,644
営業外収益	
受取利息	49
受取配当金	159
雑収入	6
営業外収益合計	214
営業外費用	
支払利息	2
固定資産除却損	88
雑支出	5
営業外費用合計	95
経常利益	6,763
税引前四半期純利益	6,763
法人税等	2,895
四半期純利益	3,868

## 【当第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	92,764
売上原価	77,110
売上総利益	15,654
販売費及び一般管理費	※ 8,230
営業利益	7,424
営業外収益	
受取利息	31
受取配当金	154
受取家賃	43
雑収入	15
営業外収益合計	243
営業外費用	
支払利息	2
貸貸費用	38
固定資産除却損	25
雑支出	7
営業外費用合計	72
経常利益	7,595
特別利益	
転貸損失引当金戻入額	47
貸倒引当金戻入額	13
投資有価証券売却益	2
特別利益合計	62
特別損失	
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	108
本社移転費用	137
特別損失合計	245
税金等調整前四半期純利益	7,412
法人税等	3,260
少数株主損益調整前四半期純利益	4,152
四半期純利益	4,152

## 【前第3四半期会計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	28,274
売上原価	23,860
売上総利益	4,414
販売費及び一般管理費	※ 2,048
営業利益	2,366
営業外収益	
受取利息	13
受取配当金	42
雑収入	2
営業外収益合計	57
営業外費用	
支払利息	1
固定資産除却損	21
雑支出	3
営業外費用合計	25
経常利益	2,398
税引前四半期純利益	2,398
法人税等	1,027
四半期純利益	1,371

## 【当第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)	
売上高	29,806
売上原価	24,349
売上総利益	5,457
販売費及び一般管理費	※ 2,759
営業利益	2,698
営業外収益	
受取利息	9
受取配当金	43
受取家賃	14
雑収入	5
営業外収益合計	71
営業外費用	
支払利息	0
賃貸費用	8
固定資産除却損	3
賃貸借契約解約損	3
雑支出	1
営業外費用合計	15
経常利益	2,754
特別利益	
転貸損失引当金戻入額	8
貸倒引当金戻入額	3
投資有価証券売却益	1
特別利益合計	12
税金等調整前四半期純利益	2,766
法人税等	1,218
少数株主損益調整前四半期純利益	1,548
四半期純利益	1,548

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】  
【前第3四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純利益	6,763
減価償却費	541
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△3
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	110
受取利息及び受取配当金	△208
支払利息	2
為替差損益 (△は益)	1
固定資産除却損	88
売上債権の増減額 (△は増加)	901
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,905
未収入金の増減額 (△は増加)	1,055
仕入債務の増減額 (△は減少)	△417
未払費用の増減額 (△は減少)	△2,863
未払消費税等の増減額 (△は減少)	14
預り金の増減額 (△は減少)	302
その他	414
小計	4,795
利息及び配当金の受取額	208
利息の支払額	△2
法人税等の支払額	△2,997
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,004
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△248
無形固定資産の取得による支出	△172
投資有価証券の売却による収入	46
その他	11
投資活動によるキャッシュ・フロー	△363
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
配当金の支払額	△939
リース債務の返済による支出	△14
財務活動によるキャッシュ・フロー	△953
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	687
現金及び現金同等物の期首残高	21,068
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 21,755

## 【当第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間  
 (自 平成22年4月1日  
 至 平成22年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	7,412
減価償却費	691
のれん償却額	350
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△19
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	116
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	5
転貸損失引当金の増減額 (△は減少)	△75
受取利息及び受取配当金	△186
支払利息	2
為替差損益 (△は益)	1
固定資産除却損	25
投資有価証券売却損益 (△は益)	△2
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	108
移転費用	137
売上債権の増減額 (△は増加)	718
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,528
未収入金の増減額 (△は増加)	1,539
仕入債務の増減額 (△は減少)	△331
未払費用の増減額 (△は減少)	△2,767
未払消費税等の増減額 (△は減少)	44
預り金の増減額 (△は減少)	505
その他	△33
小計	6,712
利息及び配当金の受取額	186
利息の支払額	△2
法人税等の支払額	△4,482
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,414
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△616
無形固定資産の取得による支出	△203
投資有価証券の売却による収入	4
関係会社株式の取得による支出	△330
事業譲受による支出	△129
その他	72
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,202
財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	△1,446
リース債務の返済による支出	△23
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,469
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△258
現金及び現金同等物の期首残高	20,587
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 20,329

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
会計処理基準に関する事項の変更	資産除去債務に関する会計基準の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益が73百万円、経常利益が74百万円、税金等調整前四半期純利益が182百万円それぞれ減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は243百万円であります。

【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
税金費用の計算 一部の連結子会社を除き、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。 なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
※1 有形固定資産の減価償却累計額は2,591百万円であります。	※1 有形固定資産の減価償却累計額は2,158百万円であります。
※2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 102百万円	※2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 122百万円
※3 担保資産 担保に供している資産で事業の運営において重要なものであり、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。 現金及び預金 一百万円	※3 担保資産 現金及び預金 150百万円
※4 四半期連結会計期間末日満期手形 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間の末日は金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形は次のとおりであります。 支払手形 28百万円	

## (四半期連結損益計算書関係)

## 第3四半期累計期間

前第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	
※ 販売費及び一般管理費の主なもの	
給料手当	1,923百万円
従業員賞与	444 "
賞与引当金繰入額	215 "
退職給付費用	203 "
福利厚生費	380 "
賃借料	578 "
減価償却費	295 "
業務委託費	733 "
貸倒引当金繰入額	2 "

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	
※ 販売費及び一般管理費の主なもの	
給料手当	2,548百万円
従業員賞与	575 "
賞与引当金繰入額	240 "
退職給付費用	202 "
役員退職慰労引当金繰入額	5 "
減価償却費	382 "
のれん償却額	350 "

## 第3四半期会計期間

前第3四半期会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	
※ 販売費及び一般管理費の主なもの	
給料手当	644百万円
賞与引当金繰入額	215 "
退職給付費用	62 "
福利厚生費	125 "
賃借料	194 "
減価償却費	99 "
業務委託費	223 "
貸倒引当金繰入額	3 "

当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)	
※ 販売費及び一般管理費の主なもの	
給料手当	840百万円
賞与引当金繰入額	240 "
退職給付費用	69 "
役員退職慰労引当金繰入額	2 "
減価償却費	140 "
のれん償却額	119 "

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金及び預金勘定	9,757百万円
有価証券勘定	2,998 "
関係会社預け金勘定	9,000 "
現金及び現金同等物	<u>21,755百万円</u>

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金及び預金勘定	6,480百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	△150 "
有価証券勘定	4,999 "
関係会社預け金勘定	9,000 "
現金及び現金同等物	<u>20,329百万円</u>

## (株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(千株)	14,529

## 2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(千株)	0

## 3 配当に関する事項

## 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年5月11日 取締役会	普通株式	726	利益剰余金	50.00	平成22年3月31日	平成22年6月1日
平成22年10月27日 取締役会	普通株式	726	利益剰余金	50.00	平成22年9月30日	平成22年12月1日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）及び当第3四半期連結会計期間（自平成22年10月1日 至平成22年12月31日）

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別の事業(本)部を置き、各事業(本)部は取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は事業(本)部を基礎とした製品・サービス別セグメントから構成されており、「モバイルセールス事業」及び「モバイルサービス事業」の2つを報告セグメントとしております。

「モバイルセールス事業」は、移動通信端末及び周辺機器の販売、フランチャイズ事業の運営等を行っております。「モバイルサービス事業」は、移動通信端末の保守サービス、携帯電話基地局の現地調整や保守サービス等を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

(単位：百万円)

	モバイルセールス事業	モバイルサービス事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	65,763	27,001	92,764
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	65,763	27,001	92,764
セグメント利益	2,602	4,822	7,424

当第3四半期連結会計期間（自平成22年10月1日 至平成22年12月31日）

(単位：百万円)

	モバイルセールス事業	モバイルサービス事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	20,933	8,873	29,806
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	20,933	8,873	29,806
セグメント利益	1,141	1,557	2,698

(注) セグメント利益の合計額は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

## (1株当たり情報)

## 1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
2,573.55円	2,396.38円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	37,392	34,818
普通株式に係る純資産額(百万円)	37,392	34,818
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(千株)	14,529	14,529

## 2 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益

前第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
1株当たり四半期純利益 266.23円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
四半期純利益(百万円)	3,868
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	3,868
期中平均株式数(千株)	14,529

当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期純利益 285.76円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
四半期純利益(百万円)	4,152
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	4,152
期中平均株式数(千株)	14,529

前第3四半期会計期間  
(自 平成21年10月1日  
至 平成21年12月31日)

1株当たり四半期純利益 94.39円  
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
四半期純利益(百万円)	1,371
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	1,371
期中平均株式数(千株)	14,529

当第3四半期連結会計期間  
(自 平成22年10月1日  
至 平成22年12月31日)

1株当たり四半期純利益 106.56円  
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
四半期純利益(百万円)	1,548
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	1,548
期中平均株式数(千株)	14,529

## 2【その他】

平成22年10月27日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 中間配当による配当金の総額 726百万円  
(ロ) 1株当たりの金額 50円00銭  
(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成22年12月1日

(注) 平成22年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月10日

NECモバイルリング株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 福田 秀敏 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 田名部 雅文 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 栗田 渉 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているNECモバイルリング株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第38期事業年度の第3四半期会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、NECモバイルリング株式会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間の経営成績並びに第3四半期累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年2月9日

NECモバイルリング株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 福 田 秀 敏 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田 名 部 雅 文 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 栗 田 渉 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているNECモバイルリング株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成22年10月1日から平成22年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、NECモバイルリング株式会社及び連結子会社の平成22年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。